

健康アドバイス

No.241



立川総合病院 呼吸器センター長
日本呼吸器外科学会 評議員

岸本 晃司

肺がん

わが国のがんによる死因のトップは肺がんです。肺がんは、他のがんと比べてそんなにたちの悪いものなのではないでしょうか？

ステージⅠ(Ⅰ期)の非小細胞

肺癌の5年生存率は73・6%

翻訳すると、「肺がんでも早期(Ⅰ期)であれば7割以上の方は治る」となります。ここに出てくる専門用語について、少し説明をしましょう。

ステージ(病期)

がんの進行程度を表します。後に付く数字が大きくなるに従って進行していることを表します。これはすべてのがんに共通の表現方法です。肺がんはごく初期の0期から、最も進行したⅣ(4)期までに分類されます。

非小細胞肺癌

肺がんは、顕微鏡で見た時の細胞の形や並び方で、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小

細胞癌の四つに分類されます。小細胞肺癌は進行が早く治療方法も異なるため別個で扱われ、これ以外をまとめて非小細胞肺癌と言います。これが肺がんの大部分を占めます。

5年生存率

がんを診断されたから5年経った時点で生存している方の割合です。「あと5年しか生きられない!」と誤解されることが多いのですが、そうではなく治る方の割合のことです。

下表を見ると、ステージⅠの肺

がん(非小細胞肺癌)の5年生存率は他のがんと比べてやや低い程度ですが、病期が進むにつれてその差が大きくなっていることがわかります。肺がんは、早期発見が他のがんよりも特に大切であると言えます。

ただ残念ながら現状の検診では、肺がんを早期に発見するのは難し

いというのが現実です。しかし朗報があります。早期に肺がんを発見することができると特殊な装置があるのです。特殊とはいっても日本は世界一の普及率で、決して珍しい装置ではありません。私のいる立川総合病院にも2台あります。次回はこの装置についてお話しします。

表 各種癌の病期別5年生存率(%)

病期	非小細胞肺癌	大腸癌	胃癌	乳癌
I	73.6	82.6	82.3	95.2
II	47.2	75.9	59.9	90.8
III	25.3	68.3	36.8	76.3
IV	6.7	16.9	5.6	35.7

公益財団法人 がん研究振興財団 がんの統計2022より